

あなたの住むまちには、
地域に根付き、魅力的な「まち」へ成長させるために尽力する「ひと」がいます

「九州観光まちづくり AWARD 2025」

参加者募集！



JR九州では、地域に根付き、地域の「ひと」にスポットを当て、今年で4回目の開催を迎える「九州観光まちづくり AWARD 2025」の参加者を募集します。候補者については、自薦・他薦による一般募集を実施しますので、九州で、伝統を守りながら新たなものを生み出している人物・団体など、皆さまからのご応募をお待ちしております。

■「九州観光まちづくり AWARD 2025」について

1. 基本理念

九州に根付き、魅力ある「まち」へと成長させる人物・団体を称え、地域の誇りになり、さらには旅人に感動を与えていく。

2. 目的

九州で、その地域ならではの伝統・伝承を守りながら、未来に向けて、新しい「もの」「こと」「風景」を生み出している方々にスポットライトを当て、その土地ならではの魅力を発信する。

3. 賞および対象

<賞>

- ・九州観光まちづくり大賞
- ・部門賞：「食」「ものづくり」「にぎわいづくり」「宿（おもてなし）」

<対象>本アワードの趣旨に適い、九州内（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県）で各部門以下の事業等に従事する人物および団体

- | | |
|--------------|--|
| 「食」部門 | ：飲食店、飲食品製造業、農業、漁業 等 |
| 「ものづくり」部門 | ：工芸、物産、お土産、体験プラン 等 |
| 「にぎわいづくり」部門 | ：イベント、地域の産業・取組み、
複数の事業者・コンテンツで構成するツーリズム形成 等 |
| 「宿（おもてなし）」部門 | ：宿泊施設、民泊 等 |

4. 運営体制

<審査委員会> 審査委員長：九州旅客鉄道株式会社 代表取締役社長執行役員 古宮 洋二

審査委員：せきね きょうこ（ホテルジャーナリスト）

高橋 俊宏（Discover Japan 統括編集長）

立川 裕大（伝統技術ディレクター）

永山 祐子（建築家）

福田 里香（菓子研究家）

宮崎 香蓮（俳優）

※敬称略、五十音順で記載しております。

<事務局> 九州旅客鉄道株式会社 営業部

■候補者の募集および受賞者の審査について

1. 候補者の募集

候補者については、一般募集（自薦・他薦）および事務局推薦にて選定いたします。

別紙1「募集要項」をご参照いただき、多くのご応募をお待ちしております。

<募集期間>

2025年1月23日（木）～3月31日（月）

<応募方法>

別紙1「募集要項」をよくご確認のうえ、別紙2「推薦用紙」を事務局宛にご提出ください。

<エントリーに関するお問合せ先>

九州旅客鉄道株式会社「九州観光まちづくりAWARD」事務局

メールアドレス：kyushu.award@jrkyushu.co.jp

2. 審査

事務局および上記審査委員会が審査基準に基づいて審査を行います。

<審査基準>

- （1）「伝統」 そのまち固有の風土、歴史、伝承を尊重している。
- （2）「進化」 既存の概念にとらわれず、未来につながる新たな価値を創造している。
- （3）「循環」 豊かな自然を生かし・守り、持続的に発展している。
- （4）「共働」 まち全体を巻き込みながら、尽力している。
- （5）「多様」 旅人、住民を問わず、誰もが体感できる。

■今後のスケジュールについて

3月31日（月） 候補者募集締め切り

5月上旬～ 審査委員会による審査

8月下旬～9月上旬 受賞者発表

12月上旬 表彰式（東京都内）

【報道機関からのお問合せ 広報部 092-474-2541】

「九州観光まちづくり AWARD 2025」募集要項

① 募集期間：1月23日（木）～3月31日（月）

② 募集対象

本アワードの基本理念および目的等の示す趣旨に適い、九州内（福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県）で、各部門以下の事業等に従事し、その地域ならではの伝統・伝承を守りながら、新しい「もの」「こと」「風景」を生み出している人物および団体。

※ご応募の際には、該当する部門を選択してください。（複数選択可）

- | | |
|------------------|---|
| ・ 「食」 部 門 | ： 飲食店、飲食品製造業、農業、漁業 等 |
| ・ 「ものづくり」 部 門 | ： 工芸、物産、お土産、体験プラン 等 |
| ・ 「にぎわいづくり」 部 門 | ： イベント、地域の産業・取組み、
複数の事業者・コンテンツで構成するツーリズム形成 等 |
| ・ 「宿（おもてなし）」 部 門 | ： 宿泊施設、民泊 等 |

③ 審査基準

以下の審査基準を踏まえた上でご応募ください。

1. 「伝統」 そのまち固有の風土、歴史、伝承を尊重している。
2. 「進化」 既存の概念にとらわれず、未来につながる新たな価値を創造している。
3. 「循環」 豊かな自然を生かし・守り、持続的に発展している。
4. 「共働」 まち全体を巻き込みながら、尽力している。
5. 「多様」 旅人、住民を問わず、誰もが体感できる。

④ 応募方法

募集期間内に別紙2「推薦用紙」を事務局宛に提出することでご応募いただけます。

1. 別紙2「推薦用紙」をダウンロードのうえ、各項目をご入力ください。
 - ・「※」は必須項目です。必須項目に入力漏れがある用紙は受付できない場合がございます。
 - ・各項目とも字数制限等はありません。
 - ・取組み内容に関する写真および添付資料は、「推薦用紙」に貼り付けずご提出ください。
 - ・推薦者ご本人に関する項目は必ず全てご入力ください。

<推薦用紙> <https://www.jrkyushu.co.jp/train/img/award2025.docx>



2. 別紙2「推薦用紙」（Word データ）をメールにて以下宛先へ送付してください。

※送付する際には必ず件名の最初に「【候補者推薦】」を記載してください。

<送付先> 九州旅客鉄道株式会社「九州観光まちづくり AWARD」事務局

kyushu.award@jrkyushu.co.jp

⑤ 注意事項

- ・ご本人による推薦（自薦）、第三者による推薦（他薦）が可能です。
- ・ご推薦いただいた人物・団体の取組み等について、事務局より推薦者ご本人さまへご連絡させていただくことがございますので、あらかじめご了承ください。
- ・最終候補者については、下記の期間で審査委員による現地視察を実施するため、取組みに関するプレゼンテーション等の対応をお願いいたします。

※対象者には、4月下旬～5月上旬頃にご連絡いたします。

【現地視察日程】7月上旬予定（予定）

- ・審査結果は8月上旬頃にメールにてご連絡いたします。
- ・推薦者本人および推薦された人物・団体について、反社会的勢力と認められる場合及び反社会的勢力と関係を有すると認められる場合は、審査の対象外となります。また、結果発表後にこれらの事情が判明した場合も、予告なく決定を取り消し、応募者の損害についての賠償は一切行いません。
- ・応募時の提出資料は返却いたしかねます。
- ・募集に際して取得する個人情報は、応募受付やお問合せ、審査等、本アワード運営に係る業務の目的で九州旅客鉄道株式会社「九州観光まちづくりAWARD」事務局が利用いたします。詳しくは、JR九州ホームページ内「個人情報の保護に関する基本方針」をご覧ください。

《個人情報の保護に関する基本方針》 <http://www.jrkyushu.co.jp/privacy/>

<エントリーに関するお問合せ先>

九州旅客鉄道株式会社

「九州観光まちづくりAWARD」事務局

メールアドレス：kyushu.award@jrkyushu.co.jp

「九州観光まちづくり AWARD 2025」候補者推薦用紙

※必ず Word データで提出してください。

◆推薦する人物・団体について

1. 人物・団体名 (※)

2. 所在地 (※)

3. 部門 (※)

※該当する部門を選択し、右の欄に○を入力してください。(複数選択可)

食	
ものづくり	
にぎわいづくり	
宿 (おもてなし)	

4. 取組み内容 (※)

※必要に応じて、取組みの様子がわかる写真を添付資料として別途提出してください。(写真は推薦用紙に貼り付けずメールに添付)

5. 推薦する理由 (※)

6. TV・雑誌等の媒体における取材・掲載実績（実績がある場合のみ）
※必要に応じて、掲載記事等を添付資料として別途ご提出ください。

◆推薦者ご本人について

※全項目について必ずご入力ください。

No.	項目		回答
1	氏名		
2	ご連絡先	TEL	
3		MAIL	
4	推薦する人物・団体との間柄		(例) 自薦の場合「本人」、他薦の場合「所在の自治体関係者」など

「九州観光まちづくり AWARD 2025」審査委員の皆さまについて



■せきね きょうこ

フランス留学後、スイスの山岳リゾート地で観光案内所に勤務。在職中、3年間の4ツ星ホテル住まいを経験。以来ホテルの表裏一帯の面白さに魅了され、フリー仏語通訳を経てジャーナリズムの世界へ。「環境問題、癒し、ホテルマン」をテーマに取材、雑誌を中心に新聞、ウェブサイトなどにも幅広く投稿。

著書多数、近著に『星野リゾート、10の物語』。FORBES、FIGARO JAPON、GOETHEなどのWEB連載多数。2010年より世界的チェーンホテル「AMAN」アドバイザー他、有名ホテルのアドバイザーも兼任。www.kyokosekine.com



■高橋 俊宏（たかはし としひろ）

岡山県生まれ。建築やインテリア、デザイン系のムックや書籍など幅広いジャンルの出版を手掛けたのち、2008年に“日本の魅力を再発見”をテーマにした雑誌、Discover Japanを創刊。編集長を務める。2018年11月に株式会社ディスカバー・ジャパンを設立。雑誌メディアを軸に、イベントや場づくりのプロデュース、デジタル事業や海外展開など積極的に取り組んでいる。現在、環境省グッドライフアワード実行委員、長崎市DMO推進検討委員会委員をはじめ、審査員やアドバイザーの実績多数。



■立川 裕大（たちかわ ゆうだい）

1965年、長崎県生まれ。オーダーメイドの伝統工芸プロジェクト「ubushina」を立ち上げ、日本の伝統技術を先鋭的なインテリアに仕立てるというスタイルを確立。家具・照明器具・アートオブジェなどを一点物として製作してきた。日本各地の職人と長年にわたってものづくりの現場を共にし、2016年、伝統工芸の世界で革新的な試みをする個人団体に贈られる三井ゴールドン匠賞を受賞。2023年にはオートクチュールからプレタポルテへ。日本の技の粋を集めたプロダクトブランド「AMUAMI」をリリースし、日本の職人の仕事を世界に届けている。



■永山 祐子（ながやま ゆうこ）

1975 年東京生まれ。1998 年昭和女子大学生活美学科卒業。1998 年青木淳建築計画事務所勤務。2002 年永山祐子建築設計設立。主な仕事、「LOUIS VUITTON 京都大丸店」「豊島横尾館」「女神の森セントラルガーデン」「ドバイ国際博覧会日本館」など。JIA 新人賞(2014)、山梨県建築文化賞、東京建築賞優秀賞(2018)、照明学会照明デザイン賞最優秀賞(2021)、World Architecture Festival Highly Commended(2022)など。現在、2025 年大阪・関西万博パナソニックパビリオン(2025)、Torch Tower などの計画が進行中。
<http://www.yukonagayama.co.jp/>



■福田 里香（ふくだ りか）

福岡県生まれ。菓子研究家。食にまつわるモノ・コトのディレクションを手掛ける。菓子ブランド「Cheesy poche」(ZAXFOX)、「サブレ・ウィークエンド・シトロン」(福岡・bbb haus)、「mikaned」(鹿児島・GNFF)等。

2009 年より Discover Japan 誌で「民芸お菓子巡礼」を連載中。著書は『季節の果物でジャムを炊く』、『いちじく好きのためのレシピ』、『民芸お菓子』、『新しいサラダ』等。[instagram.com/riccafukuda](https://www.instagram.com/riccafukuda)



■宮崎 香蓮（みやざき かれん）

1993 年長崎県島原市生まれ。島原市ふるさと PR 大使。

2006 年第 11 回全日本国民的美少女コンテスト演技部門賞受賞後、デビュー。その後数々のドラマや映画、舞台に出演中。近年では長崎県地域発ドラマ「かんざらしに恋して」(NHK)では松尾綾子役として出演すると同時にことば指導も担当した。

2021 年、東京 2020 オリンピック聖火リレーにて島原市内聖火ランナーとして走行するなど、長崎の魅力を県内外に発信している。

【敬称略、五十音順で記載】

2024 年開催「九州観光まちづくり AWARD 2024」受賞者の皆さまについて

大賞

[熊本・南小国] 株式会社 Foreque (喫茶竹の熊)
フオレック きつさたけ くま

南小国の良質な国産材である小国杉を使った家具やオイルなどのインテリア・ライフスタイルブランド「FIL」や「喫茶竹の熊」を運営。地域資源を活用し、南小国の魅力を伝えるプロダクトを展開し、「自然と人・人と人」の繋がりを深めるため尽力されている。

受賞のポイント

小国杉を高付加価値化へ導き、地元のこどもたちへの教育、廃棄物ゼロの循環性など広範囲にわたって活動している点。さらに喫茶竹の熊の場づくりも素晴らしく、南小国町の地域を体感できる空間は日本全国を見渡しても見つけることができない唯一無二性を感じる点。

金賞（「食」部門）

陶芸家 宇佐美 裕之氏、料理家 宇佐美 友香氏 [大分・臼杵]
ひろゆき ゆか

宇佐美裕之氏は約 200 年前に臼杵藩で作られた幻の焼物を 2015 年に現代版臼杵焼として蘇らせた、気鋭の陶芸家。そして器は料理の額縁、と考えるのは、妻の友香氏。野菜ソムリエやフードコーディネーターなどの資格を持つ友香氏が作るのは、臼杵の「ほんまもん農作物」をふんだんに使った、野菜が主役の手作り料理。「うすき皿山」には「臼杵焼」のギャラリー、カフェ、焼き菓子を楽しめるスペースがあり、工房では見学や体験も可能。

金賞（「ものづくり」部門）



筒井時正玩具花火製造所株式会社 [福岡・みやま]

3 代目筒井良太氏が、1999 年に廃業予定だった国内唯一の線香花火製造所（八女市）から、その線香花火の製造技術を引き継ぎ、当時中国製の 70 本 100 円程だった線香花火を、線香花火の火花の変化を人生に例えることで贈答品としてリデザインすることに成功し、約 10,000 円の桐箱入りの線香花火が売れるようになった。伝統工芸品である線香花火を時代のニーズに合う形で継承しながら、その世界観を幅広い分野に活かし地域の人を巻き込むことで、持続的な地域づくりに貢献されている。

金賞（「にぎわいづくり」部門）



ひのさと48 [福岡・宗像]

日の里団地は、今から約50年前に完成し、最盛期には約20,000人が暮らしを共にした九州最大級の集合住宅。2020年、老朽化が進み一部閉鎖棟を解体し、次の50年を暮らす場をつくる団地再生プロジェクト「さとづくり48」が始動。古くなったものをただ壊して、新しくつくり変えるのではなく、日の里団地や宗像という地域で大切にされてきた「気持ちのバトン」を次の世代へと受け渡すことをテーマにさまざまな活動をおこなっている。

特別賞 — NEXT CREATE —



めぐりめぐらす [長崎・五島]

五島列島の福江島にあり、海辺の5世帯6人だけが暮らす小さな集落「半泊」に佇む宿泊施設。建築家・中村好文氏が設計した心地よい空間で一人一人のその時々モードに合った「非日常」「考える時間」を提供している。人口減少が急速に進む離島において消えゆく集落を、時代に即した新しい形として再生する試みとして注目。五島出身で、大学生ながらめぐりめぐらすの開業・運営にも携わった宮崎幸汰氏は、今後も五島のみならず九州内の観光振興に携わりたいと大きな志を示している。

特別賞 — NEXT CREATE —



一般社団法人 RIVERBANK 坂口 修一郎氏

[鹿児島・南九州]

リバーバンクは2018年7月に、鹿児島県南九州市 川辺に有志によって設立された、地域課題に取り組む一般社団法人。森の中の廃校で行われるグッドネイバーズ・ジャンボリー（GNJ）は、「みんなでつくる文化祭」。2010年から15回目の開催となる2024年に最後の開催を迎える。GNJ 実行委員会代表の坂口氏は鹿児島県生まれで、東京と鹿児島を拠点に、日本各地でオープンスペースの空間プロデュースやイベント、フェスティバルなど、ジャンルや地域を越境しながら多くのプレイスメイキングを行っている。

■ 最終審査ノミネート者について

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| ・HIKE [熊本・玉名] | ・高取焼鬼丸雪山窯元 鬼丸 碧山氏 [福岡・東峰村] |
| ・糺屋本店 浅利 妙 峰氏 [大分・佐伯] | ・でいーぶまりん 安部達也氏 あづみ氏 [大分・佐伯] |
| ・cocoNotsu [鹿児島・日置] | ・九州 移住ドラフト会議 [九州全域] |
| ・大崎町SDGs推進協議会 [鹿児島・曽於郡] | |

※詳細は、2024年8月22日付リリース「『九州観光まちづくりAWARD2024』受賞者決定！」をご覧ください。

2023 年開催「九州観光まちづくり AWARD 2023」受賞者の皆さまについて

大賞

えぬびーおーほうじん

べっぶ

ぶろじえくと

NPO 法人 BEPPU PROJECT [大分・別府]



地域の創造的なエンジンとしてアートを活かした課題解決や価値創出を行っている。アート体験の提供や多様なジャンルでの創造的な課題解決を通し、多様な価値が共存する魅力溢れる地域の実現を目指している。

受賞のポイント

温泉地をアートで盛り上げ、収益を生み出す循環ができてるのが素晴らしく、アートで地域おこしをする団体のお手本になるのではないか。アイデアを集めて活動を継続させていく姿に刺激を受けた。

金賞（「食」部門）



はな かしのぞうかぶしがいいしや

花の香酒造株式会社 [熊本・玉名]

酒造りににおける哲学として「産土」を掲げ、地域・土地ならではの土着に重きを置いた酒造りを行う。

酒造りにおいては理念に基づいて地元産の酒米のみを使用し、農業と共生する酒造りを実現。地域に伝わってきた独自の自然農法（無農薬、無施肥、一本手植え、畑苗代等）で契約農家が育てた米を使用することで、地域の自然環境の循環や伝統的な米づくりを守り継いでいる。

金賞（「ものづくり」部門）



かぶしがいいしや こくら しまし

株式会社小倉縞縞 [福岡・北九州]

小倉織は 400 年の歴史を持つ木綿織物。昭和初期に一度途絶えたが、1984 年に復元・再生された。小倉縞縞は、新しい時代の小倉織を手掛ける。小倉織を北九州の文化とするべく、小倉織協同組合を発足させ、徐々に小倉織のブランドを確立している。また旦過再生支援プロジェクト「旦過 負けるか!」を立ち上げるなど、小倉織という伝統工芸を通じて地域の活性化にも尽力している。

金賞（「にぎわいづくり」部門）

えぬびーおーほうじん

えい

かい

NPO 法人 額娃おこそ会 [鹿児島・南九州]



額娃おこそ会では、「地域総力戦のまちおこし」・「後継者のいる町」をコンセプトに、自主的にやりたい事を持つ人をリーダーとしたプロジェクト制を取り、活動を進めている。荒れ果てた公園を復活させる「公園プロジェクト」や空き家を有効活用し様々な用途で使用する「空き家再生プロジェクト」等、地域の観光来訪者数の増加やU I ターンの創出に貢献しており、地域の活性化に寄与している。

金賞（「宿（おもてなし）」部門）

伝泊^{でんぱく} [鹿児島・奄美]

「小さな集落を取り残さない社会を実現」することを目標に、奄美の深い温かな魅力へそっと寄り添う3種類の宿を運営しており、さながら集落住民の一員かのようなひとときをご提供。今後の取り組みとして29ある奄美大島の集落の文化をすべて伝泊で体験できるようにしたいという点や、「稼ぐ」「雇用を作り出す」「移住者」を増やすという点も忘れていない貪欲さも持ち合わせている。

特別賞 — NEXT CREATE —

下園^{しもぞの}薩男^{さつお}商店^{しょうてん} [鹿児島・阿久根]

1939年の創業以来、鹿児島県北部の港町である阿久根市を拠点に、古くから地元につながる干物「ウルメイワシの丸干し」を製造・販売しており、阿久根に根付く食文化を世界へ発信するため、様々な事業展開を行っている。2017年には、1Fにショップ・カフェ、2Fにイワシの加工工場、3Fにホテル（簡易宿泊施設）を併設した複合ビル「イワシビル」をオープンさせ、世界中からお客さまがお越しになっている。

■ 最終審査ノミネート者について

- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| ・糸永 源樹氏（合同会社 相島 CREW 代表） [福岡・新宮] | ・うきは酒宿 いそのさわ [福岡・うきは] |
| ・佐伯 岳大氏（株式会社サエキジャパン代表） [福岡・福岡] | ・地域文化商社 うなぎの寝床 [福岡・八女] |
| ・オープンコミュニティスペースみんなの [福岡・糸島] | ・おんせん県いいサウナ研究所 [大分・豊後大野] |
| ・株式会社都農ワイン [宮崎・都農] | ・黒川温泉観光旅館協同組合 [熊本・阿蘇] |

※詳細は、2023年8月30日付リリース「『九州観光まちづくりAWARD』受賞者決定！」をご覧ください。

2022 年開催「西九州観光まちづくり AWARD」受賞者の皆さまについて

大賞



嬉野茶時（うれしのちゃどき） [佐賀・嬉野]

佐賀・嬉野の歴史的伝統文化である嬉野茶・肥前吉田焼・温泉を後世へ守り伝えるため、時代に合わせた新しい切り口でその魅力を表現・発信するプロジェクト。3つの産業が伝わる地域の特徴を活かし、嬉野に根差し様々なジャンルで活躍する人々が参加している。2019 年からは、肥前吉田焼や温泉と結び付けたお茶の楽し

み方を「茶空間体験」や「茶輪」^{ちゃりん}「歩茶」^{ほちゃ}など様々なかたちで表現する「ティーツーリズム」を始動。他生産地への展開も進行中。



奥津 爾（おくつ ちかし）氏 [長崎・雲仙]

長崎・雲仙で自身が運営する直売所を拠点として、在来種野菜の素晴らしさを地元や全国に広め、在来種を守り継ぐ活動を続ける。農家・岩崎政利氏が約 40 年にわたって在来種野菜の自家採種を続け、守り継いできた豊かな野菜の多様性を地域内外に発信するため、「オーガニック直売所タネト」を運営。生産者と消費者を繋ぐ

拠点となっている。2020 年からは食とデザインのイベントを開催するなど、多方面で種採り野菜の魅力を発信。インターンシップ受入等、後進の育成にも取り組む。

特別賞 — NEXT CREATE —



中島 大貴（なかしま ひろたか）氏 [佐賀・塩田]

佐賀・嬉野の塩田エリア唯一の酪農家。水田・酪農・堆肥による循環を守り、2021 年には、コーヒーの新しい抽出方法であり牛乳の新たな楽しみ方である「MILKBREW COFFEE」というカルチャーのプラットフォームとして、塩田津に築 167 年の蔵を改装したカフェを開業。



馬場 匡平（ばば きょうへい）氏 [長崎・波佐見]

長崎・波佐見の波佐見焼産地問屋として、波佐見焼の認知度向上およびブランディングの取り組みを行い、2021 年には、異文化に触れる場所をつくるため私設公園「HIROPPA」を波佐見に開設した。地元の子どもたちの遊び場であり、波佐見焼に触れることもできる機会を提供。



森 一峻（もり かずたか）氏 [長崎・東彼杵]

長崎・東彼杵で地元住民と移住者を繋げ、移住促進や開業支援を行う。地域の交流拠点・情報発信拠点となる「Sorrisoriso 千綿第三瀬戸米倉庫」を運営するとともに、地域の魅力を発信する Web サイト「くじらの髭」を運営。イベント等を通して他地域との連携も積極的に行う。

※詳細は、2022 年 8 月 31 日付リリース「『西九州観光まちづくり AWARD』受賞者決定!」をご覧ください。